

9月定例会

●会期 8月23日～9月10日(19日間)

令和2年度各会計決算を認定 提出された全議案可決



9月定例会議案採決(議案第11号)

今回は
報告 4件
市長提出議案 18件
議員提出議案 2件

【議案第6号】 令和3年度八幡平市一般会計補正予算(第5号)

2億4567万円
増額の補正予算

歳入、歳出それぞれ2億4566万6千円を増額し、累計201億4862万4千円とするもので、主な歳出は次のとおりです。

- ▼新型コロナウイルスワクチン接種予約コールセンター業務委託料 1016万4千円
- ▼矢神飛躍台水源調査業務委託料 1052万7千円

Q 飛躍台の維持管理には、水の確保が不可欠である。特に水量を十分に確保できるかが重要だと思いが、現在の見通しは。

A 水量については、本年度に水源調査を実施し、来年度は水量に合わせた能力のポンプを設置する予定である。

Q 今回、県が独自の緊急事態宣言を発令した。コミセンの使用について、具体的にどのような対策を取っていくのか伺う。

A 基本的には、事前に参加される方々の名簿作成が可能なる場合に限り使用できるように対応する。

Q 学校の中で、ワクチンを接種した人、しない人で差別が生じるのは良くない。今の段階で改めてどういう方向性なのか伺う。

A 接種で差別が起きることは当然許されない。対応としては、学校での集団接種は行わない。市の集団接種で誰が接種したのか、していないのかを分らないようにする。また、学校ごとではなく、市内の子どもの名前(アイウエオ順)で行うことにより、接種による差別は生じないものと考えている。



9月定例会を彩った安代りんどう

【反対討論】 米田定男議員(日本共産党)

反対の大きな理由は図書館建設計画が進行していることである。建設の是非の判断の指針は、図書館法であり、市公共施設等総合管理計画である。図書館法第2条では「この法律において、図書館とは図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする施設」としている。交流人口の拡大などという目的は存在しない。また、市公共施設等総合管理計画の基本方針の第1に掲げられているのは、「既存公共施設等の有効活用」である。これらの側面からみれば図書館建設の必要性は皆無である。

ある。また、この事業の最大の問題は巨額の事業費である。既に投下された資金は約41億円であり、図書館建設で60億円を超えることになる。図書館建設を含めて大更駅前開発事業が財政運営上において実質的に聖域となっているといわざるを得ない。市長の施政方針は「公共施設の維持管理に多額の需要、限られた財源の効果的、効率的な配分」を強調したが、駅前開発事業はこれと真逆である。政治の最優先の課題は、市民生活を守ることであり、財政もそこにこそ最優先で投入されるべきである。ましてや現在、暮らしをめぐる最大の社会問題は貧困と格差の拡大である。駅前開発最優先は逆立ちした政治ともいえるべきものである。

【賛成討論】 羽沢寿隆議員(八起会)

令和2年度の決算額は、歳入総額が約242億1千万円、歳出総額は約235億2千万円、差し引き約6億9千万円である。実質収支額は約6億1400万円の黒字である。市債残高は173億円になり、昨年度より5億円減少した。このコロナ禍の中で、自主財源である市税収入が伸び悩み、中、実質収支比率を微増させ、市債残高を減らし、自主財源比率の落ち込みをカバーしている点は非常に評価するところである。また、大更駅前開発は市の活性化、商業振興のため、当初の計画どおり粛々と進めるべきである。問題は、いつ終わる

とも知れない新型コロナウイルスまん延下の中の財政運営を当局・議会・市民が一体となり、「選択と集中」の考えのもとに歳出の抑制を図り、次世代に大きな負担を課すことがないように、より一層、財政の健全化に努めるべきである。議員各位におかれては、安易に混乱を引き起こすことなく賢明な判断と前向きなご賛同をお願いしたい。また、まだまだ続くであろうこの難局に議員各位のより一層の鋭意努力を重ねてお願いして、令和2年度一般会計決算の賛成討論とする。

令和3年第3回定例会 賛否の分かれた議案の採決結果

議案名	議員名(会派名)																				議決結果	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20		
令和2年度八幡平市一般会計歳入歳出決算認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案認定

※賛成=○、反対=● 工藤剛議長は採決に加わりません